

平成 24 年 2 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 24 年 1 月 12 日

上場会社名 株式会社 日本色材工業研究所 上場取引所 大
 コード番号 4920 URL <http://www.shikizai.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 奥村 浩士
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営統括本部長 (氏名) 土谷 康彦 (TEL) 03 (3456) 0561
 四半期報告書提出予定日 平成 24 年 1 月 13 日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 24 年 2 月期第 3 四半期の連結業績 (平成 23 年 3 月 1 日～平成 23 年 11 月 30 日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|------------------|-------|------|------|-------|------|------|--------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 24 年 2 月期第 3 四半期 | 5,423 | 10.2 | 346 | 31.1 | 274 | 47.0 | 303 | 91.6 |
| 23 年 2 月期第 3 四半期 | 4,923 | 5.5 | 264 | 179.9 | 186 | — | 158 | — |

| | 1 株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益 |
|------------------|------------------|-------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 24 年 2 月期第 3 四半期 | 70.33 | — |
| 23 年 2 月期第 3 四半期 | 36.69 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1 株当たり純資産 |
|------------------|-------|-------|--------|-----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 24 年 2 月期第 3 四半期 | 7,098 | 1,579 | 22.2 | 366.17 |
| 23 年 2 月期 | 7,001 | 1,345 | 19.2 | 311.99 |

(参考) 自己資本 24 年 2 月期第 3 四半期 1,579 百万円 23 年 2 月期 1,345 百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---------------|----------|----------|----------|-------|-------|
| | 第 1 四半期末 | 第 2 四半期末 | 第 3 四半期末 | 期 末 | 合 計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 23 年 2 月期 | — | 0.00 | — | 10.00 | 10.00 |
| 24 年 2 月期 | — | 0.00 | — | | |
| 24 年 2 月期(予想) | | | | 10.00 | 10.00 |

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成 24 年 2 月期の連結業績予想 (平成 23 年 3 月 1 日～平成 24 年 2 月 29 日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1 株当たり 当期純利益 |
|-----|-------|-----|------|------|------|------|-------|-------|-----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通 期 | 7,187 | 7.8 | 482 | 19.6 | 403 | 31.8 | 399 | 641.7 | 92.68 |

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「2. その他の情報」をご覧ください。）

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

- (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 有

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|----------|------------|----------|------------|
| 24年2月期3Q | 4,318,444株 | 23年2月期 | 4,318,444株 |
| 24年2月期3Q | 5,573株 | 23年2月期 | 5,474株 |
| 24年2月期3Q | 4,312,915株 | 23年2月期3Q | 4,314,679株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき記載しております。実際の業績は、今後様々な要因により予想とは異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）P.3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する定性的情報 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する定性的情報 | 2 |
| (3) 連結業績予想に関する定性的情報 | 3 |
| 2. その他の情報 | 4 |
| (1) 重要な子会社の異動の概要 | 4 |
| (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 | 4 |
| (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 | 4 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 5 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 四半期連結損益計算書 | 7 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 8 |
| (4) 継続企業の前提に関する注記 | 9 |
| (5) セグメント情報 | 9 |
| (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | 10 |

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、3月11日の東日本大震災および原発事故による企業の生産活動の停滞や消費マインドの落ち込みから脱し、徐々に回復の兆しがみえておりましたが、長期化する円高・株安に加え、欧州債務危機の拡大・深刻化や米国景気の失速懸念など海外経済に対する不安感が一段と強まってきたことから、国内景気の先行きは再び不透明感の強い様相を呈しております。

このような経済動向のもと、日本の化粧品業界も、出荷金額が前年同期と比べ減少するなど厳しい状況にありますが、化粧品受託製造業界においては、大手化粧品販売会社によるアウトソーシング化の進展や異業種企業による化粧品事業への新規参入などを背景に、緩やかではありますが堅調な推移をみております。

このような事業環境のもと、当社グループは、昨年度より取組んでおります「成長のための事業構造改革プロジェクト(STEP-UP80)」の枠組みの中で、ファンデーション、ライナー・マスカラならびにUV関連製品等の注力領域にターゲットを絞り込んだ新処方の開発や売上の拡大、グローバルな企画提案型営業の推進などに注力した結果、国内化粧品メーカー向けメイク化粧品の受注獲得や海外大手化粧品メーカーとの新規成約などに成果をあげることができました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における連結業績は、売上高は5,423百万円(前年同期比10.2%増)、営業利益346百万円(同31.1%増)、経常利益274百万円(同47.0%増)、四半期純利益は303百万円(同91.6%増)となりました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりです。

なお当社は、当第1四半期連結会計期間から、マネジメント・アプローチによるセグメント情報の開示方法に基づき、報告セグメントとして従来の所在地別セグメントによる開示情報に一本化しております。

(日本)

当社の化粧品事業は、新製品の受注が好調に推移し、仕上げ化粧品では主にファンデーション、ライナー・マスカラ、またスキンケア化粧品ではUV製品、パック・化粧水が、ともに前年同期を上回る受注を獲得し、売上高を伸ばすことができました。

利益面では、売上高増加要因に加え「STEP-UP80」による利益率の改善とコストマインドの浸透が奏効し、大幅な増益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,794百万円、営業利益は412百万円となりました。

(仏国)

欧州経済は、ギリシャ債務危機を端緒とする欧州ソブリンリスク問題がスペイン、イタリアなどに拡大するなど一段と混迷を強めるなか、長期化する域内経済の停滞を背景に個人消費が冷え込むなど依然として厳しい事業環境が続いております。

このような事業環境のもと、フランス子会社THEPENIER PHARMA INDUSTRIE S.A.S.(以下、テプニエ社という)は、化粧品事業が増加基調に転じるなか主力の医薬品と衛生品が伸び悩んだことに加え、年初来の賃金改定や社会保障費の引き上げ、派遣スタッフ増員による人件費負担増等の要因により、厳しい経営成績を余儀なくされました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は688百万円、営業損失は60百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して96百万円増加し、7,098百万円となりました。主な増加要因は、現金及び預金の79百万円減少に対して受取手形及び売掛金が239百万円増加、たな卸資産が90百万円増加、その他が繰延税金資産等の増加により30百万円増加したことにより流動資産が281百万円増加する一方で、北茨城の土地売却等により有形固定資産が226百万円減少したのに対して投資その他の資産のその他が長期繰延税金資産の増加等で43百万円増加したことにより固定資産が184百万円減少したことによるものです。

負債合計は、前連結会計年度末と比較して137百万円減少し、5,518百万円となりました。主な減少要因は、短期借入金が595百万円減少に対して1年以内償還予定の社債が66百万円増加、その他が142百万円増加したことにより流動負債が378百万円減少する一方で、長期借入金が216百万円増加し、固定負債のその他が適格退職年金制度から確定拠出年金制度への移行等に伴って72百万円増加したのに対して退職給付引当金が30百万円減少した結果、固定負債が240百万円増加したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末より233百万円増加して1,579百万円となりました。

主な増加要因は、株主資本が、当第3四半期連結累計期間の利益剰余金の増加303百万円に対して、前連結会計

年度の支払配当金43百万円を差し引いたことで前連結会計年度末より260百万円増加して1,683百万円となりましたが、前連結会計年度末より対ユーロの為替が円高に動いたことで為替換算調整勘定が前連結会計年度末より14百万円減少し、株式市場の低迷からその他有価証券評価差額金が7百万円減少したこと等から評価・換算差額等が26百万円減少して△104百万円になったことによるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前連結会計年度末より27百万円減少して714百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は、294百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益206百万円、減価償却費204百万円、その他の流動負債の増加額174百万円、仕入債務の増加額55百万円、その他負債の増加額58百万円から得られた資金から売上債権の増加額246百万円、たな卸資産の増加98百万円、利息の支払額69百万円を差し引いた結果によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果増加した資金は、95百万円となりました。これは主に、北茨城の土地売却に伴う有形固定資産の売却による収入144百万円、定期預金の一部担保解除に伴う現金同等物の増加52百万円から得られた資金から有形固定資産の取得による支出94百万円を差し引いた結果によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は417百万円となりました。これは主に、短期借入金の純減少額470百万円、長期借入れによる収入1,350百万円と長期借入金の返済による支出1,259百万円、社債の発行による収入196百万円と社債の償還による支出150百万円、配当金の支払42百万円によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年2月期の通期連結業績予想につきましては、平成23年9月27日に公表しました業績予想に変更はございません。

2. その他の情報

（1）重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

（2）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

（簡便な会計処理）

① 棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ、簿価切下げを行う方法によっております。

② 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理）

該当事項はありません。

（3）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

（「資産除去債務に関する会計基準」等の適用）

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これによる損益への影響はありません。

（表示方法の変更）

四半期連結損益計算書関係

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

（追加情報）

退職給付引当金

当社は、平成23年9月1日付で適格退職年金制度について確定拠出年金制度へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第1号）を適用しております。

本移行に伴う影響額は、当第3四半期連結累計期間の特別損失として69,176千円計上しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成23年11月30日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成23年2月28日) |
|---------------|--------------------------------|--|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 850,375 | 929,868 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,832,291 | 1,592,685 |
| たな卸資産 | 948,532 | 857,654 |
| その他 | 232,216 | 202,043 |
| 貸倒引当金 | △651 | △543 |
| 流動資産合計 | 3,862,763 | 3,581,708 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 1,188,320 | 1,242,408 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 302,777 | 335,943 |
| 土地 | 1,187,902 | 1,326,477 |
| その他(純額) | 43,367 | 43,815 |
| 有形固定資産合計 | 2,722,369 | 2,948,644 |
| 無形固定資産 | 199,126 | 200,991 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 155,647 | 167,345 |
| その他 | 209,896 | 148,549 |
| 貸倒引当金 | △51,725 | △45,363 |
| 投資その他の資産合計 | 313,819 | 270,531 |
| 固定資産合計 | 3,235,315 | 3,420,168 |
| 資産合計 | 7,098,079 | 7,001,876 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 1,024,657 | 975,721 |
| 短期借入金 | 1,290,060 | 1,885,855 |
| 1年内償還予定の社債 | 200,200 | 133,400 |
| 未払法人税等 | — | 40,711 |
| 偶発損失引当金 | 2,082 | 2,158 |
| その他 | 774,323 | 631,636 |
| 流動負債合計 | 3,291,323 | 3,669,482 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 299,700 | 316,600 |
| 長期借入金 | 1,556,437 | 1,339,863 |
| 退職給付引当金 | 71,251 | 102,241 |
| 役員退職慰労引当金 | 172,910 | 172,910 |
| その他 | 127,199 | 55,171 |
| 固定負債合計 | 2,227,498 | 1,986,786 |
| 負債合計 | 5,518,821 | 5,656,268 |

(単位:千円)

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成23年11月30日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成23年2月28日) |
|--------------|--------------------------------|--|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 552,749 | 552,749 |
| 資本剰余金 | 781,854 | 781,854 |
| 利益剰余金 | 350,879 | 90,698 |
| 自己株式 | △2,114 | △2,084 |
| 株主資本合計 | 1,683,368 | 1,423,218 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 10,404 | 18,033 |
| 繰延ヘッジ損益 | △8,707 | △3,901 |
| 為替換算調整勘定 | △105,807 | △91,742 |
| 評価・換算差額等合計 | △104,110 | △77,610 |
| 純資産合計 | 1,579,258 | 1,345,607 |
| 負債純資産合計 | 7,098,079 | 7,001,876 |

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年11月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日) |
|-----------------|--|--|
| 売上高 | 4,923,314 | 5,423,253 |
| 売上原価 | 3,926,037 | 4,303,077 |
| 売上総利益 | 997,277 | 1,120,175 |
| 販売費及び一般管理費 | 733,208 | 773,940 |
| 営業利益 | 264,068 | 346,234 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 314 | 106 |
| 受取配当金 | 4,003 | 4,224 |
| 投資有価証券割当益 | 3,531 | — |
| 保険解約返戻金 | — | 1,901 |
| その他 | 9,582 | 7,159 |
| 営業外収益合計 | 17,432 | 13,392 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 80,094 | 61,539 |
| 社債発行費 | 2,159 | 3,369 |
| 寄付金 | — | 10,448 |
| その他 | 12,259 | 9,407 |
| 営業外費用合計 | 94,513 | 84,763 |
| 経常利益 | 186,987 | 274,862 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | — | 5,843 |
| 貸倒引当金戻入額 | 128 | — |
| 在外子会社過年度職業税還付 | 10,535 | — |
| 特別利益合計 | 10,663 | 5,843 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 3,348 | 5,408 |
| 退職給付制度改定損 | — | 69,176 |
| 特別損失合計 | 3,348 | 74,584 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 194,301 | 206,121 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 27,169 | 7,264 |
| 法人税等調整額 | 8,833 | △104,452 |
| 法人税等合計 | 36,002 | △97,188 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | — | 303,310 |
| 四半期純利益 | 158,299 | 303,310 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年11月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日) |
|-------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 194,301 | 206,121 |
| 減価償却費 | 206,299 | 204,782 |
| 偶発損失引当金の増減額(△は減少) | 4,152 | — |
| 退職給付引当金の増減額(△は減少) | △5,265 | △28,224 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | △128 | 8,721 |
| 受取利息及び受取配当金 | △4,318 | △4,331 |
| 支払利息 | 80,094 | 61,539 |
| 社債発行費 | 2,159 | 3,369 |
| 投資有価証券割当益 | △3,531 | — |
| 固定資産売却損益(△は益) | — | △5,843 |
| 固定資産除却損 | 3,348 | 5,408 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 289,933 | △246,526 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | △5,442 | △98,868 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △183,832 | 55,224 |
| 未払消費税等の増減額(△は減少) | △32,292 | △7,114 |
| その他の流動負債の増減額(△は減少) | 155,210 | 174,983 |
| その他 | 7,879 | 58,821 |
| 小計 | 708,568 | 388,063 |
| 利息及び配当金の受取額 | 4,498 | 4,371 |
| 利息の支払額 | △105,054 | △69,948 |
| 法人税等の支払額又は還付額(△は支払) | △13,265 | △27,640 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 594,747 | 294,845 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | △289,500 | △119,500 |
| 定期預金の払戻による収入 | 289,500 | 172,000 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △67,949 | △94,971 |
| 有形固定資産の売却による収入 | — | 144,060 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △5,433 | △5,664 |
| その他 | 31 | — |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △73,351 | 95,924 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額(△は減少) | △137,800 | △470,000 |
| 長期借入れによる収入 | 1,290,000 | 1,350,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △1,191,496 | △1,259,221 |
| 社債の発行による収入 | 97,840 | 196,631 |
| 社債の償還による支出 | △100,000 | △150,100 |
| 自己株式の取得による支出 | △333 | △30 |
| リース債務の返済による支出 | △19,121 | △14,594 |
| 配当金の支払額 | △42,641 | △42,979 |
| その他 | △1,117 | △26,861 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △104,669 | △417,155 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △2,135 | △727 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 414,589 | △27,113 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 310,835 | 741,330 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 725,425 | 714,216 |

（4）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（5）セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自平成22年3月1日 至平成22年11月30日）

| | 化粧品事業 (千円) | 医薬品その他 事業 (千円) | 計 (千円) | 消去又は全社 (千円) | 連結 (千円) |
|---------------------------|---------------|-------------------|-----------|----------------|-----------|
| 売上高 | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 4,471,953 | 451,361 | 4,923,314 | — | 4,923,314 |
| (2) セグメント間の内部売上高 又は振替高 | — | — | — | — | — |
| 計 | 4,471,953 | 451,361 | 4,923,314 | — | 4,923,314 |
| 営業利益 | 677,959 | 12,813 | 690,772 | (426,704) | 264,068 |

（注）1. 事業区分の方法……製品の種類別区分によっております。

2. 各区分に属する主な製品名称

(1) 化粧品事業……ファンデーション、アイシャドー、チーク、口紅、リップクリーム、美容乳液、日焼け止め等

(2) 医薬品その他事業…水虫治療薬、薬用歯磨き、口腔洗浄剤、耳洗浄剤、衛生製品等

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自平成22年3月1日 至平成22年11月30日）

| | 日本 (千円) | 仏国 (千円) | 計 (千円) | 消去又は全社 (千円) | 連結 (千円) |
|---------------------------|-----------|---------|-----------|----------------|-----------|
| 売上高 | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 4,177,563 | 745,751 | 4,923,314 | — | 4,923,314 |
| (2) セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 26,996 | — | 26,996 | (26,996) | — |
| 計 | 4,204,560 | 745,751 | 4,950,311 | (26,996) | 4,923,314 |
| 営業利益 | 680,976 | 4,923 | 685,899 | (421,831) | 264,068 |

（注） 国又は地域の区分の方法……製造工場所在地によっております。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自平成22年3月1日 至平成22年11月30日）

| | 欧州 | その他の地域 | 計 |
|----------------------------|---------|---------|-----------|
| I. 海外売上高 (千円) | 812,916 | 216,107 | 1,029,024 |
| II. 連結売上高 (千円) | — | — | 4,923,314 |
| III. 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%) | 16.5 | 4.4 | 20.9 |

（注）1. 国又は地域の区分の方法……地理的近接度によっております。

2. 各区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州：フランス、イタリア、英国、ドイツ、ベルギー、スイス

(2) その他の地域：北米、中国、香港、韓国、台湾、マレーシア

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

〔セグメント情報〕

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、主に化粧品等を生産しており、国内においては当社が、仏国においてはTHEPENIER PHARMA INDUSTRIE S.A.S.が、取り扱う製品について包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、生産体制を基礎とした所在地別のセグメントから構成されており、「日本」及び「仏国」の2つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成23年3月1日 至平成23年11月30日）

（単位：千円）

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|-----------|---------|-----------|--------------|--------------------------------|
| | 日本 | 仏国 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 4,735,164 | 688,088 | 5,423,253 | — | 5,423,253 |
| セグメント間の内部売上高又は 振替高 | 59,460 | — | 59,460 | △59,460 | — |
| 計 | 4,794,624 | 688,088 | 5,482,713 | △59,460 | 5,423,253 |
| セグメント利益又は損失（△） | 412,278 | △60,805 | 351,472 | △5,238 | 346,234 |

（注）1. セグメント利益又は損失の調整額△5,238千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（追加情報）

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。